

平成24年度までの取組状況

資料5

取組分類		取組内容	実施年度	効果	平成21年度以降の取組状況	今後の取組
1	民間的経営手法の導入	院内保育所の運営業務を民間業者へ委託	H21年度	経費削減効果や、人事管理(欠員補充等含む)、健康管理、勤務体制管理等に係る負担軽減効果が見込まれる。	H21.10.1 院内保育所「あいあい保育園」開所 プロポーザル方式により民間業者に委託運営を実施 【対象児】0歳から満3歳まで(未就学児は一時預かりのみ) 【定員】23名/日(H24年7月定員増 15→23名) 【保育時間】基本保育・一時預かり 7:30~19:00(月~土) 夜間保育 15:30~翌8:00(火・木)	完了
		クレジットカード決済の導入	H20年度~	年間10%の利用を見込み、患者サービス及び収納率の向上を図る。	平成21年3月から実施 H21: 5,853件 利用率 9.5% H22: 7,583件 利用率 10.0% H23: 9,190件 利用率 10.8%	完了
2	事業規模形態の見直し	経営体制の強化を検討	H21~ 22年度	地域の基幹的急性期病院としての機能を維持し、市民に質の高い適切な医療を安定して提供する体制を確保するため、地方公営企業法全部適用等による経営体制の強化を検討する。	H21: 庁内検討 計5回開催 先進病院視察 H22: 静岡市立病院経営形態最適化検討会設置 3回実施 (構成員: 学識経験者、公認会計士、医師会代表、市民代表) 結論: 「地方公営企業法の全部適用が相応しい。」 理由: 管理者が設置され一定の権限が付与されるため、自主・自立的運営、柔軟で効率的な経営、環境変化に迅速・適格に対応した経営が、一部適用よりも可能となる。	継続 H25.4.1 移行は延期となり、最適な経営形態について再検討することとした。(H24年2月議会答弁)
3	経費節減抑制対策	DPC実施	H21年度~	標準化した医療の提供、費用の分析等により、コストの削減及び増収が期待できる。 また、DPC実施後の各種分析により採用薬品の見直しを図る。	H21年7月からDPC対象病院となる。 院内委員会を中心に、コーディングや診療内容の分析、検討、各科へのフィードバックなどを行っている。 【DPCと従来の出来高比較】 H21: 158百万円(5.4%)増 H22: 342百万円(7.8%)増 H23: 329百万円(7.3%)増 【後発医薬品の採用数】 H21: 133品目(1,506品目中8.8%) H22: 150品目(1,516品目中9.9%) H23: 172品目(1,558品目中10.8%) 削減額: 7,976,810円	継続 後発医薬品は先発薬品に比べ安価であるが、安全管理や安定供給について考慮する必要があるため、今後も院内の薬事委員会で適切な検討を行ったうえで採用を決定していく。

取組分類	取組内容	実施年度	効果	平成21年度以降の取組状況	今後の取組
3 経費節減 抑制対策	S P D 導入の 適否の検討	H21 年度	さまざまなシミュレーションを実施し、S P D の導入の適否について検討する。導入可能となれば、医療材料のコスト削減等が期待できる。	導入経費を試算した結果、委託業者に支払う年間経費が、S P D 導入により削減される人件費を上回り、さらに初期投資も相当額に及ぶことから現状においては導入を見送ることとした。(平成22年度)	継続検討 他病院のS P D 導入実績を踏まえ、導入効果について今後も検証を行う。
	静岡病院との 事業共同化の 推進	継 続	○薬品を共同購入することによりコストメリットを出す(継続)。 ○診療材料についても共同購入を推進する(H21年度～)。 ○委託事業一本化の検討・推進を図る(平成21年度～)。	【薬品の共同購入】 H21：263品目(交渉品目上位500品目中)約412万円減額 H22：128品目(交渉品目上位300品目中)約908万円減額 H23：133品目(交渉品目上位250品目中)約693万円減額 【診療材料の共同購入】 H23：1,158品目 【委託業務の共同化】 約120万円削減 H21：委託3業務 H22：委託4業務 H23：委託9業務 他2業務	拡大
	医療機器購入 についての精 査、選定	継 続	院内における複数の組織で精査、選定することで、より費用便益に優れた必要度の高い機器の購入ができ、投資的経費の効率的な運用に繋がる。	医療機器購入の選定は、複数メーカーから性能、価格等を比較検討し、病院長による診療科長とのヒアリングを経た後、最終的に病院内の決定機関である医療機器購入委員会(委員長：院長 委員：18名)に諮り決定している。	継続

取組分類	取組内容	実施年度	効果	平成21年度以降の取組状況	今後の取組																		
4 収入増加 確保対策	医療スタッフの安定的な確保等	継続	<p>医師・看護師等医療スタッフの安定的な確保、地域の医療機関との一層の連携などにより、入院患者の増加に努め、病床利用率の向上を図り、平成23年度に、病床利用率 79.6%の達成を目指す。</p> <table border="1" style="border-style: dashed; margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th colspan="3">職員数 () は後期研修医 内数</th> </tr> <tr> <th></th> <th>医師数</th> <th>看護師数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21. 4. 1</td> <td>66(16)</td> <td>330</td> </tr> <tr> <td>H22. 4. 1</td> <td>69(14)</td> <td>336</td> </tr> <tr> <td>H23. 4. 1</td> <td>70(10)</td> <td>332</td> </tr> <tr> <td>H24. 4. 1</td> <td>72(14)</td> <td>333</td> </tr> </tbody> </table>	職員数 () は後期研修医 内数				医師数	看護師数	H21. 4. 1	66(16)	330	H22. 4. 1	69(14)	336	H23. 4. 1	70(10)	332	H24. 4. 1	72(14)	333	<p>【医師負担軽減と処遇改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応援医師（延 900 人以上）及び救急業務従事者等の派遣確保（2→3 人）、医療秘書の充足（5→11 人） ・平成 21 年 4 月から「初任給調整手当」を創設（H21 年 4 月） <p>【看護師確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度途中における採用試験の実施（5 回） ・院内保育所の設置等により確保及び離職防止 ・退職看護師への声かけ <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学医局への積極的な働きかけ ・民間人材斡旋会社への依頼 ・医大生・研修医を対象とした合同説明会へのブース出展 ・H24 年度にホームページをリニューアルする。 <p>【病床利用率】</p> <p>H21:78.2% H22 : 80.6% H23:80.3%</p>	拡大
	職員数 () は後期研修医 内数																						
		医師数	看護師数																				
H21. 4. 1	66(16)	330																					
H22. 4. 1	69(14)	336																					
H23. 4. 1	70(10)	332																					
H24. 4. 1	72(14)	333																					
	未収金対策	H20 年度～	<p>平成 21 年度に徴収員を 1～2 名増員し、徴収実績の向上を図る。また、クレジットカード決済の導入を 21 年 3 月に実施し患者サービスの向上とともに、収納額、収納率の向上を図る。</p>	<p>平成 21 年度から徴収員 3 名体制で電話による督促、文書連絡、現地調査、相談対応等を行っている。</p> <p>平成 23 年 1 月から債権回収会社へ徴収業務の委託を開始。</p> <p>【過年度未収金の比較】</p> <p>平成 21 年度決算額 143,175,401 円</p> <p>平成 22 年度決算額 147,137,869 円</p> <p>平成 23 年度決算額 146,374,341 円</p> <p>※クレジットカード導入状況は前頁のとおり</p>	継続																		
	D P C に対応した診療の実施	H21 年度～	<p>リスクの少ない手術予定の患者に対し、外来にて術前検査を実施し、入院期間を短縮することにより、D P C 評価による診療収入全体の増収が図られる。</p>	※前頁のとおり	継続																		

取組分類	取組内容	実施年度	効果	平成21年度以降の取組状況	今後の取組	
4	収入増加 確保対策	患者駐車場の 環境整備等	H21年度 ～継続	患者用駐車場の環境整備と 使用料改定の検討を行う。	患者の利便性を図るために駐車場の区画幅の見直しを実施する予定であったが、駐車場利用患者の増加に伴う混雑を回避するために、当面現状維持することとした。駐車料金の改定は、駐車場の整備とあわせての検討課題とした。	継続検討
		遊休資産(職員 住宅跡地)の売却	H22年度 ～継続	平成22年度売却予定	【駒越西医師住宅跡地】 H22：解体・造成実施 H24：鑑定評価を再実施 【迎山医師住宅跡地】 H23：敷地境界画定測量実施 H24：鑑定評価を実施	H25年度 迎山医師住宅を一般競争入札により 売却予定
		地域医療支援 病院指定を目指した準備の 実施(ICUの 設置(5床)、紹介率・逆紹介率 の向上等)	継続	急性期病院としての機能を 高め、開業医との連携を強化 することで、地域全体の医療の質 を向上させ、より良い医療を効 率的に提供することができる。	【地域医療支援病院】 H23.9.29承認 H23.10.1指定 【ICUの整備】 H24：実施設計 6床(うち感染症用2床) 【紹介率】 H21：50.1% H22：40.4% H23：42.4% 【逆紹介率】 H21：36.1% H22：65.4% H23：77.3%	指定完了 ICU整備継続 H25～26年度 ：工事施工 H27年度：稼動
5	その他	医師業務の負 担軽減	H20年度～	医療秘書を20年度に5名配 置し、勤務医の負担を軽減し、 平成21年度には10名を配置し 一層の負担軽減を図る。	H21年3月医療秘書室を新設 H21末：11名 H22末：12名 H23末：11名 H24年2月現在：15名 業務：診断書作成サポート(H22：8,173件 H23：8,578件) 応援医師の電子カルテ代行入力、院内がん登録等	拡大 H25医療秘書17名 に増員予定
		院内保育所の 設置などの環 境改善の実施	H20年度～	今後の看護師確保に必要な 条件の一つとなる院内保育所 を設置し、育児や保育に係る環 境整備を行うことにより、看護 師の新規募集、離職防止等に大 きな効果が期待できる。 また、病棟における看護補助 員を20年度後半から21年度に かけて増員し、慢性的な人員不 足による看護師の業務負担の 軽減を図る。	【あいあい保育園】H21.10.1開園 (利用実績) H21：昼 486名 夜 20名 計 506名(月平均 84名) H22：昼 2,254名 夜 217名 計 2,471名(月平均 206名) H23：昼 3,088名 夜 220名 計 3,308名(月平均 276名) (定員) 23名/日(平成24年3月末在籍児童数：24名) 【看護補助員】 H23：51名を委託から直雇用に切替	拡大

取組分類	取組内容	実施年度	効果	平成 21 年度以降の取組状況	今後の取組																				
5	その他	<p>コメディカルの交替勤務体制の導入</p>	<p>H21 年度</p> <p>薬剤科、検査技術科、放射線技術科の 3 科については現行の当直体制から二交替制へ移行することにより、健康管理の面や時間外勤務縮減等からも有効になる。</p>	<p>【検査技術科、放射線技術科】 H21 年度から実施</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間外勤務実績</th> <th>20 年度</th> <th>21 年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>検査技術科</td> <td>6,953 時間</td> <td>7,636 時間</td> <td>683 時間</td> </tr> <tr> <td>放射線技術科</td> <td>2,836 時間</td> <td>2,207 時間</td> <td>△629 時間</td> </tr> </tbody> </table> <p>※検査技術科の時間外増は、21 年度オーダリングシステム導入に伴う導入初期対応の時間外の増によるもの。</p> <p>【薬剤科】 22 年 11 月から実施</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間外勤務実績</th> <th>22 年度</th> <th>23 年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤科</td> <td>4,936 時間</td> <td>4,424 時間</td> <td>△512 時間</td> </tr> </tbody> </table>	時間外勤務実績	20 年度	21 年度	増減	検査技術科	6,953 時間	7,636 時間	683 時間	放射線技術科	2,836 時間	2,207 時間	△629 時間	時間外勤務実績	22 年度	23 年度	増減	薬剤科	4,936 時間	4,424 時間	△512 時間	完了
		時間外勤務実績	20 年度	21 年度	増減																				
		検査技術科	6,953 時間	7,636 時間	683 時間																				
放射線技術科	2,836 時間	2,207 時間	△629 時間																						
時間外勤務実績	22 年度	23 年度	増減																						
薬剤科	4,936 時間	4,424 時間	△512 時間																						
<p>高度医療機器等の計画的整備</p>	<p>継 続</p> <p>地域の基幹病院としての機能を増進させ、医療ニーズや患者サービス向上を進めるとともに患者満足度を高める。</p>	<p>購入計画に基づき、多職種にわたり医療機器の更新等を図り、医療ニーズや患者サービス向上を進めた。</p> <p>【主な医療器械】</p> <p>H21：画像診断システム、超音波診断装置</p> <p>H22：血管造影撮影装置、口腔外科デジタル撮影システム</p> <p>H23：手術用顕微鏡システム、4D 超音波画像診断装置</p>	<p>継 続</p>																						
<p>患者満足度調査の実施</p>	<p>継 続</p> <p>患者による医師、看護師、事務等への評価、要望を把握し患者サービス及び経営の改善を図る。平均満足度評価 4 以上（5 段階評価）が確保できるように努める。</p>	<p>平成 22 年度患者満足度調査結果</p> <p>【入院に関する平均満足度】</p> <p>H21：4.33%（うち十分満足：44.0%）</p> <p>H22：4.23%（うち十分満足：38.7%）</p> <p>H23：4.34%（うち十分満足：45.5%）</p> <p>【外来に関する平均満足度】</p> <p>H21：4.03%（うち十分満足：24.9%）</p> <p>H22：4.05%（うち十分満足：22.7%）</p> <p>H23：4.09%（うち十分満足：27.7%）</p>	<p>継 続</p>																						

取組分類		取組内容	実施年度	効果	平成21年度以降の取組状況	今後の取組
5	その他	医療情報の発信や、市民ボランティアの活用	継続	平成20年度事業として実施した市民健康講座には、437名の参加があり市民の健康管理への意識啓発となった。また、病院ボランティアには病院事業のお手伝いをいただいている。いずれの事業も市民により身近な病院としての存在に貢献している。	<p>【病院ボランティア】</p> H23：組織の見直しを実施 H24 年9月から、主に患者来院時の介助等の活動に従事している。現在もホームページ等を通じて、随時募集を行っている。 <p>【市政ふれあい講座】</p> H21：計5回 140名参加 H22：計3回 122名参加 H23：計3回 135名参加 H24：計2回 50名参加（H25.2末現在） <p>【その他】</p> 患者さんのための機関誌『きよかぜ』毎月発行 清水区生活情報誌『ベイプレス』へのコラム毎月掲載	継続
		チーム医療に対応できる看護師のスキルアップ	継続	平成21年度から認定看護師の資格取得を推進することで、看護能力向上を図る。	H21：2名受講 がん化学療法看護、緩和ケア H22：2名受講 皮膚・排泄ケア、脳卒中リハビリテーション H23：2名受講 集中ケア、感染管理 H24：2名受講 がん化学療法看護、慢性心不全看護	拡大 H25年度： 4名分要求済